

1 PLAN(目的・概要)

政策名	国際競争力及び産業競争力の強化と港湾物流の環境変化に対応した港づくり	30年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 港営課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	港湾厚生施設の維持管理			連絡先	052-654-7873	
目的	対象(誰・何を)	港湾労働者及び船員			事業期間	昭和43年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	港湾厚生施設の適切な維持管理に努め、快適な労働環境の形成を図ります。				
概要	港湾労働者福祉センター、岸壁休憩所、船員船客待合所、名古屋船員会館「ハーバーロッジなごや」の各施設の運営方法、施設の修繕、必要棟数等について、関係者と調整し、快適な港湾労働環境の形成を図ります。			根拠法令等	港湾法、港湾労働法	
令和元年度の実施予定	引き続き、施設の修繕などを行い、快適な港湾労働環境の形成を図ります。			実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
				関連シート		

2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	船員船客待合所、公衆便所の委託清掃の実施、また、船員船客待合所の消防設備の点検を行いました。施設を良好な状態に維持するとともに、快適な港湾労働環境を形成することができました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	257	1,093	4,219	1,856	元年度から、公衆便所清掃他(3,273千円)を事業費として計上していることから増額となっている。
人件費	千円	2,757	2,766	2,752	2,758	
合計	千円	3,014	3,859	6,971	4,615	

3 CHECK(検証)

成果目標名	29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
港湾福利厚生施設数(棟) (単年度管理型)	目標	14	14	16	16	中間目標 (=30年度16棟(福祉センター5棟、岸壁休憩所9棟、船員船客待合所1棟、船員会館1棟))	
	実績	14	14	16	16		
事業進捗状況(元年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
長期間施設が利用できなかった件数(件) (単年度管理型)	目標			0	0	施設の維持管理を適切に行い、長期間施設の利用停止が無いようにします。	
	実績		0	0	0		
事業進捗状況(元年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	港湾福利厚生施設については、利用者ニーズ、施設の維持管理コストを踏まえた施設の適切な管理に努め、目標を達成しました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	○	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？					
	○	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？					
有効性	○	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？					
	○	期待どおりの成果が得られているか？					
効率性	○	施設の老朽化に伴い修繕費等のコストがかかっていますが、維持管理計画による補修、(公財)名古屋港湾福利厚生協会が管理運営(一部建設を含む)することで効率的な運用を図っています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	引き続き、港湾労働者のために港湾厚生施設を適切に維持管理する必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題	2年度以降の取組		
港湾厚生施設の多くは老朽化が進んでおり、快適な港湾労働環境の形成を図るため、維持管理計画に基づく補修、(公財)名古屋港湾福利厚生協会の協力による適切な維持管理を行う必要があります。	名古屋船員会館(ハーバーロッジ名古屋)の外壁補修工事をR2年度に施工を予定しています。		